

特別企画

安定的な財源の確保に取り組むクラブ

NPO法人せいきコミュニティスポーツクラブ ＜福井県勝山市＞

日本スポーツ協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取り組みが求められます。

そこで今回は、独自の方法で安定的な財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。

1 クラブ概要

福井県の北東、石川県との県境に位置する勝山市（人口約2万3000人、世帯数8000、平均年齢47・5歳）は、明治時代以来の地場産業である繊維産業を中心とした商工業と農林業が盛んです。一年を通して観光客で賑わう「県立恐竜博物館」、「国史跡平泉寺」や西日本最大級のスノーリゾートスキージャム勝山は、冬は純白のスノーワールド、夏はアクティブな高原リゾートとして一年を通して満喫できる人気施設を有しています。

我がクラブは、地域住民の主体的な運営により、生涯を通してスポーツに親しめる環境づくりを目指し、平成21年3月に勝山公民館管下に設立。以来“小さくてもキラリと光るせいきコミュニティスポーツクラブ”として、スポーツ・健康・文化にわたる多様な貢献内容と実践活動により、ソーシャルキャピタルで地域のつながりや人間関係の構築を通して人がクラブをつくり、クラブは人をつくる」を形成し、生涯スポーツの普及で、地域交流の場・居場所づくりや地域の絆を築くことで、「地域の活性化」と「社会保障費削減」といった、有形無形の社会貢献を目指す「オンリーワン」のクラブとして設立されました。

少子高齢化が進み医療費や介護費は年々増加していることから、抑制する解決策として運動やスポーツを子どもから高齢者に積極的に日常生活の中に取り入れ、将来に備えるという予防的観点から「生涯スポーツ」の普及が不可欠の時代を迎えています。

こうした背景から、現代のスポーツは、もはや単にスポーツそのものの振興だけを担えばいいという時代は終わりを告げ、今や様々な社会の課題解決の一翼を担う、極めて社会的な存在として進化しています。勝山地区においても、こうした問題を改善し、地域のスポーツ環境の充実を図るために有効な方策という観点から、地域コミュニティのプラットフォームとして、勝山公民館管下に設立するに至った次第です。

「設立時のキーパーソン」

各競技種目の全日本・国体等の大会に県代表選手とした活躍したアスリート、大学医療学系看護教授、県理学療法士会会長、管理栄養士、第43回福井国体の競技役員経験者、公認有資格者、県議会議員、前小中学校校長、区長会長、商工会議所役員、ロータリクラブ役員ら15人

「クラブ理念」=【小さくてもキラリと光るせいきコミュニティスポーツクラブ】

「『新しい公共』の主体として、その役割である地域のスポーツ環境を形成する。クラブと地域が融合したスポーツ・健康・文化にわたる多様な活動を通じて世代間交流や地域コミュニティの発展につなげていく」

2 現在の活動状況

<多世代・多種目対応事業>

1. スポーツ教室開催

ノルディック・ウォーク教室/スティックリング教室/ボッチャ教室/スカイクロス教室/スポチャン教室/公式輪投げ教室/ラターゲッター教室/歩くスキー&スノーシュー教室/スポーツツーリズム体験/健康体操教室(高齢者・婦人・子ども・企業等の運動教室):卓球・バドミントンを筆頭に多種目対応スポーツ活動

2. 文化教室

美術学級(絵画・習字)・英会話講座・展示会の開催/小笠原流発祥の地:茶道体験・生花教室/繊維のまち:草木染め体験/栄養(料理)指導教室

3. 小・中学校部活支援

部活動への指導者派遣:ノルディックスキー指導(選手育成・強化)

4. 委託事業

ノルディック・ウォーク体験教室(いまスポクラブ、小松市・加賀市NW協会・上野子ども園、勝山公民館、遅羽公民館、勝山地区社会福祉協議会等)

5. 委託イベント(毎年恒例事業)

福井県民スポーツ祭NW交流会/ふくい健康長寿祭/県ニュースポーツ普及・拡大事業/県高次脳機能障害支援事業(ボッチャ・スティックリング・輪投げ・ラターゲッター等)

6. 活動拠点・活用施設

勝山市民交流センター多種目大ホール/市内各公民館ホール等/事業受託先施設

3 会費等の自主財源が希薄→クラウドファンディング(CF)を活用

当クラブは、ボランティアによる自主運営のため、会員の会費・寄付金を主要財源とした財務計画になっており、運営費捻出手段としては、以下の2点になります。

- ① 出前指導事業所(公民館、幼稚園、小中学校、各種団体、SC)
- ② 行政等(県教委スポーツ課、県スポーツ協会、しあわせ福井スポーツ協会、県社会福祉協議会、県共同募金会等々)

上記からの事業委託により財源を確保しており、他力本願の財源構成になっている次第です。

- ◆ 出前指導・教室、受託事業に関しては、各専門部に再委託している関係で、それぞれの単独会計にて処理をしています。

出前指導・教室などの事業受託だけでは、安定した自己財源の確保につながらないため、クラウドファンディング(CF)の導入に至りました。CFを通したクラブの認知度向上により市内外の各種機関から事業受託が増加し、財源確保につながっています。自主財源確保手法には、CFの活用が最適だと思います。

4

募金モデル事業としてノルディックウォーク（NW）イベントを企画、CFで展開

◆経緯

福井県共同募金会から「募金アイデアモデル事業」の協力依頼を受け、募金モデル事業団体に認定されました。「自分のまちから不幸な孤独をなくす」活動を行う福祉団体を応援するために、クラウドファンディングを活用。募金の協力に共感・共鳴の意識を得られる仕組みを取り入れた「健康づくりと観光ツアーソーシャルノルディック・ウォーク（NW）歩いて勝山を元気にするチャリティイベント」を企画・実施しました。

◆「ミラカナ」の概要

福井新聞社、レディーフォー（Readyfor）、福井銀行が連携するクラウドファンディング。福井県内のプロジェクト実行者から参加申し込みを受け付け後、プロジェクト内容を精査して提携先のレディーフォーと情報を共有。準備が整い次第、ミラカナ、レディーフォーの特設ホームページにおいてプロジェクトを公開、一定期間を経て目標額が集まった場合のみ実行者に資金を提供する「オールオアナッシング方式」（一部例外あり）で全国から広く支援を募っている。

◆経過

【2018年】

11月 福井県共同募金会に提案 その後、モデル事業決定
12月 レディーフォーへプロジェクトの要望 「ミラカナ」経由

【2019年】

1月 7日 福井県共同募金会・「ミラカナ」合同打ち合わせ
9日 レディーフォー・福井県共同募金会・「ミラカナ」打ち合わせ
12日 レディーフォーインターネット打ち合わせ（イベント原稿作成）
15日 イベント原稿作成・送付
16日 レディーフォー・福井県共同募金会・「ミラカナ」打ち合わせ
18日 イベントチラシ作成1,000枚
19日 福井県共同募金会・「ミラカナ」打ち合わせ
22日 福井新聞イベント掲載・CF決定通知
29日 イベントチラシ配布 1,000枚
2月 2日 イベント案内状発送300通（募集金額：300,000円＝一口3,000円～）
23・24日 勝山左義長祭りツアー（プレイベント各日60人参加）
3月 1日 レディーフォー・福井県共同募金会・「ミラカナ」・福井新聞ホームページでCFスタート
募集開始（3/1～3/29：1ヶ月間）
3日 関係機関・関係者案内状送付
15日 福井県共同募金会・「ミラカナ」打ち合わせ（中間募集状況把握）
29日 募集締め切り レディーフォー・「ミラカナ」305,000円到達
4月 3日 レディーフォー・福井県共同募金会・「ミラカナ」目標達成報告
5日 寄付者（25名）・関係機関に礼状発送
28日 勝山ジオパークをノルディック・ウォークで巡るイベント実施
（パステル画展鑑賞・体験、アスリート弁当、バルーンアート、「石」文化認定国史跡平泉寺、越前大仏スポーツツーリズム）3庁連携事業
29日 参加者、寄付者、関係機関に事業実施終了の礼状・返礼品発送
5月 3日 レディーフォーに事業実施報告書提出
10日 募金入金（銀行振込）

◆返礼品の内容

1万円以上＝ノルディック・ウォーク専用ポール1組、当クラブNWイベント無料招待券1枚、記念スポーツタオル1枚、クラブ特製アスリート弁当(1,200円相当郷土料理)1人前

5千円～1万円＝当クラブNWイベント招待券1枚、記念スポーツタオル1枚、アスリート特製弁当1人前

3千円～5千円＝記念スポーツタオル1枚、NW記念缶バッジ1個

◆苦勞した点:

初体験のため、メール交換・テレビ会議といった手法が不慣れのため苦勞しました。それに、目標の資金調達法が銀行振込やクレジットカード決済方式なので、高齢者の方はその手法が不慣れのため、お伝えすることが大変でした。

◆良かった点:

- ① 短期間の資金調達でしたので、「ミラカナ」と県共同募金会を相談者として指導・協力を願い、取り組んだことで早く目標金額調達ができたと思います。
- ② 我がクラブは、日頃連携して活動をしている団体・関係者からの協力を得て取り組んだことが成功に導いてくれたと思います。クラブの自主財源確保には、最適の資金調達法だと思います。

◆工夫した点:

我がクラブが、社会的課題を解決するために、支援者から「共鳴」・「共感」を得ることができる内容を企画しました。

◆成果:

CF活用宣伝効果によってファン(会員)獲得と活動資金調達にもつながりました。併せて、ノルディック・ウォーク事業が持続可能な開発目標につながる総合型地域スポーツクラブの事業として取り組むことができていることも、大きな成果だと感謝をしています。



クラウドファンディング:
福井県共同募金会より感謝状贈呈式状況

5

CFの成功で委託事業の依頼が増加

◆ 出前教室・指導事業

CFを活用したノルディックウォークイベントでは、出前先の協力・支援を活用しているため、経費の支出や会場の準備、参加者等の募集の手間を省いて活動ができ、作業がスムーズに行えました。出前先の活性化にもつながり、出前先から好評を得られました。

◆ 受託事業

財源が無いことへの対策として、県の行政や関係団体に事業委託の要請をしてきた結果、かなりの反響を得て相互がWIN=WIN で好成果を収めることができ、次につなげることができました。

※何事も信頼・信用の社会において、クラブがNPO法人であり、クラウドファンディングの成功が功を奏し、「地域のコモンズ」と非営利組織として認知されたことで、委託事業の依頼が増加傾向になりました。

● 寄付金収入は、主に生涯スポーツ普及による健康を目的とするのみではなく、社会の課題解決も目的に加えた「ソーシャル・グループ・ワーク」を提唱し、“地域社会の役に立ちたい”というプロジェクトを立ち上げ、プラットフォームのサイトを通じて「地域社会の支えになる」といったことに共感・共鳴いただいた多くの人から寄付を集めて、一部は共同募金をし、残金は活動資金に充当して健全運営に現在も役立っています。

6

5財源からバランスよく資金調達 背景に地域住民からの信頼

クラブの理念「小さくもキラリと光るせいきコミュニティスポーツクラブ」として、「地域のクラブ」「地域のコモンズ」を外部に明確に提示し、地域住民に信頼される組織として活動に取り組み、五つの複数の財源からバランスよく資金調達して、自主財源を充実させ、財政基盤を確立した上で、さらなる成長を目指して外部の資金調達に挑戦します。

◆ 資金調達の5財源

①会費 ②寄付金 ③スポーツイベント収入 ④補助・助成金 ⑤受託金

7

行政等と連携し、未来志向型の「地域のcommons」を目指す

クラブの運営・参画・役割に対する施策のさらなる見直しなど、行政がスポーツ推進に取り組む上での課題解決が必要になってくると考えます。

本年度は、スポーツを通して築いた「人と人とのつながり」や「助け合いの関係」を地域の身近な日常生活で生み出す総合型地域スポーツクラブとしての役割が、当クラブに期待されていることから、行政等と多様なパートナーシップを構築し、未来志向型の「地域のクラブ・地域のcommons」を目指す所存です。

(NPO法人せいきコミュニティスポーツクラブ 理事長 四谷 憲夫)



恐竜公園内：君原健二選手ロードコースNW状況



勝山市ジオパーク事業(七里壁)：NWで高札巡り



上野こども園NW教室ボールストレッチ



アスリート弁当で交流会状況

クラブ プロフィール

設立年月日 平成21年3月28日

所在地 福井県勝山市片瀬1-402

運 営 会員数246名(令和2年2月現在)、予算規模80万円(令和1年度)

有給職員 0名

特 徴 我がクラブは、地域住民(会員・支援者)の主体的な運営により、スポーツによる絆づくり、コミュニティの創生によって、子ども、高齢者、障がい者、外国人など幅広い世代の人々がスポーツを通じて「共生」しながら、生涯を通してスポーツに親しめる明るく元気な社会づくり、そして健康長寿・健幸華齢な“まちづくり”を、ボランティア活動で実現できるよう実践活動をしている非営利組織で、「オンリーワンクラブ」を目指しています。

連絡先 〒911-0811 福井県勝山市片瀬1-402
TEL 0779-88-8220 FAX 0779-87-1022
E-Mail seiki_9315@yahoo.co.jp